



## Contents

1	はじめに	1
2	理事会・幹事会報告	1
3	海外学会派遣募集	4
4	第13回大会案内	5
5	次期役員候補の募集について	9
6	行事予定・開催報告など	10
1)	応用生態工学会東京の活動紹介	10
2)	第8回北陸現地WS in 福井	11
7	新任ごあいさつ	11
8	学会誌の公開について	12
9	編集後記: 事務局から	12

## 1 はじめに

今年開催する第13回大会(さいたま市浦和区)の実行委員会での検討も進み、大会概要が決まって参りました。また、第1回次期役員募集・推薦委員会も開催され、第6期から第7期への役員改選に向けた準備も進みつつあります。学会および会員各位が、さらに発展し、社会貢献を行うため学会運営へのご協力お願いいたします。

## 2 理事会・幹事会の報告

ニュースレターNo.43を発行してから、2回の

幹事会と3回の理事会が開催されました。理事会での報告及び検討内容を主体として報告します。

### 役員会開催状況と出席者(敬称略)

第37回幹事会	平成21年3月23日(月)	江崎, 熊野, 鎌田, 萱場, 清水, 星野, 山本, 事務局: 奥村, (仮谷)
第45回理事会	平成21年3月23日(月)	山岸, 近藤, 辻本, 森下, 荒井, 沖野, 奥田, 竹村, 古川, 間宮, 山本, 江崎, 事務局: 奥村, (仮谷)
第46回理事会(メール会議)	平成21年4月24日(金)~5月1日(金)	
第38回幹事会	平成21年5月10日(日)	江崎, 熊野, 内田, 風間, 鎌田, 萱場, 清水, 角, 関根, 高野, 西, 星野, 山本, 事務局: 仮谷
第47回理事会	平成21年5月11日(月)	山岸, 近藤, 辻本, 荒井, 沖野, 奥田, 竹村, 古川, 間宮, 森, 山本, 江崎, 事務局: 仮谷

### 第45回理事会(平成21年3月23日)

#### <議事内容>

#### 1. 報告事項

##### 1.1 会員状況

正会員・学生会員が微減少傾向にあること、賛助会員・口数の減少は「経費節減」が理由であることを報告した。

##### 1.2 経過報告

地域研究会の活動が活発であり、役員も参加するなど支援が必要との意見があった。

##### 1.3 平成20年度決算見込み

年度末までの会費収入及び地域研究会の収入・支出の加算により、単年度の収入・支出ともに前年並みとなる見込みであることを報告した。特記として、ELR2008は黒字であったこと、委員会活動が活発であったので予算を超過したことを報告した。

## 2. 検討事項

### 2.1 次期役員募集・推薦委員会

提示した規程(案)については、修正を加え、メール会議にて再度諮ることとなった。

推薦委員は、下記の4名の方々をお願いすることとなった。

川那部浩哉元会長、廣瀬利雄前会長、山岸哲会長、森下副会長

### 2.2 将来構想委員会報告(各委員会内規ほか)

下記2点について確認された。

- ・各地域の市民活動に詳しい方の協力を得ることなどにより、普及委員会がパートナーシップ委員会の活動も担う。
- ・情報サービス委員会、編集委員会については役割・機能を考慮してスリム化する。

### 2.3 第13回大会(1月23日実行委員会)

9月26日(日)の11~13時に第6期役員会、総会後の17~18時に第7期役員会を予定していることを報告した。大会実行について、下記2点について意見があった。

- ・公開シンポジウムのテーマがやや総花的なので、「参加者が理解し・議論できる」ような企画を研究者がリーダーシップを発揮して検討することが必要である。
- ・関係機関への協力依頼は、行政機関を原則とすること。

### 2.4 編集委員会

『会誌投稿規程にある「原稿の送付先:埼玉大学」を「学会事務局」に変更したい』との浅枝編集委員長の意向について、【編集幹事(仮称)の設置など】の代案を編集委員会で検討願うこととなった。

## 3. その他

### 3.1 商標権

「応用生態工学会」については社会的認知が高まっているので存続しない。また、「応用生態工学研究会」についてはNPOの判断に委ねる。

### 3.2 COP10対応

2010年に愛知県名古屋市で開催されるCOP10(生物多様性条約第10回目締約国会議)

に向け、応用生態工学会独自の取り組みの実施を検討していくこととなった。リーダーは辻本副会長、これに竹村理事および生態学者(辻本理事が人物を特定)が協力して実行委員会をつくっていく。

- ・当学会は理念と活動方針などに照らして、「生物多様性」を主題とするCOP10に参画することが望ましい。
- ・日本景観工学会からの「URBIOの開催に向けた連携の呼びかけ」に記された4月1日の会議に辻本理事がオブザーバーとして参加し、その場で応用生態工学会の意思を伝える。

## 第46回理事会(平成21年4月23日~5月1日)

メール会議にて、次期役員募集・推薦委員会規程(案)と同委員会開催の可否について諮り、過半数の理事の承認を得た。

次期役員募集・推薦委員会は、5月7日(木)に実施することとなった。

## 第47回理事会(平成21年5月11日)

### <議事内容>

#### 1. 報告事項

##### 1.1 会員状況

平成20年度会員数が、初めて減少傾向であることを報告した。

##### 1.2 経過報告・活動予定

平成20年度の行事等開催報告と地域の研究会での活動予定等について報告した。

##### 1.3 平成20年度決算

平成20年度決算報告を行なった。

地域研究会の収入・支出では、独立採算を目指していく点について確認があり、東京研究会の口座開設については、普及委員会で検討して結論を出すことについて了承された。

## 2. 検討事項

### 2.1 COP10に向けた学会の取り組みについて 辻本副会長より、COP10に向けた学会の取り組みについて、資料を提示して説明がなされた。

- ・委員会のような上位組織とその下位組織であるワーキンググループの設置について提案がなされ、一旦、辻本副会長、江崎幹事長、森理事等で会議を行い、検討の方向性・枠組み、市長会議等との連携可能性について検討していくこととなった。
- ・テーマは、流域圏等の大きなテーマが望ましいとの意見が出され、「COP10を契機とした流域での応用生態工学を考えた取り組み」について、応用生態工学会として文書を出していく方向で、検討を進めることとなった。
- ・これらの検討成果は、平成22年5～6月頃に名古屋で発表の場を設けることが決定された。

### 2.2 次期役員募集・推薦委員会 開催報告

推薦委員会の開催報告、推薦委員会より出された規程修正案、スケジュール、幹事会での意見について説明し、以下について承認、決定された。

- ・総会前の役員候補の公表と選挙による次期役員予定者の決定は、本年採用するもので過渡期と認識し、望ましい選出手法については、規約改訂を視野にいれて次期役員会で検討していくこととなった。
- ・今後は、次期会長予定者が幹事長・幹事候補を理事会に諮り、承認を得ていくこととなった。

### 2.3 会誌編集委員会報告(規程・内規の修正)

4月10日に開催された委員会報告として、委員の委嘱期間を平成22年3月31日にまで延長したこと、編集幹事が長崎委員(株)日本工営に決定したことを報告した。J-Stage(論文電子投稿システム)の試行に伴う規程・内規の修正案について諮り、承認された。

また、会誌編集委員会より提案のあった論文へのCPDの付与、総合評価方式等での技術者評価向上のための取り組みについては、委員会内で検討し役員会に諮るようとの意見があった。

### 2.4 第13回大会実行委員会報告

4月24日に開催された委員会報告として、公開シンポジウムの検討内容、エクスカージョンは荒川上・中・下流での実施を予定していること、ポスターセッションの審査員は幹事が担当することについて報告し、承認された。

### 2.5 交流委員会 海外学会派遣方法について

平成21年度の海外学会派遣方法については、例年通りの派遣方法(ニュースレター等で募集、応募者の選定・派遣)で実施することで承認された。

### 2.6 普及委員会活動報告

次回普及委員会において、担当幹事が幹事会での指摘(地域研究会四国の名称、普及委員会が地域活動全体を常に把握しておくべきであること、東京研究会の口座開設について、など)を報告し、委員会でこれらを至急検討することが、確認された。

### 2.7 情報サービス委員会報告

昨年度活動報告と本年度の活動予定(ホームページ写真募集、活用方策検討等)について報告し、承認された。

## 3. その他

### 3.1 2011年度大会の金沢への招請について

応用生態工学会・金沢より2011年度大会の金沢開催の招請があったこと、緑化工学会から呼びかけがあつて当学会が昨年返答をしている合同開催については、緑化工学会での意思決定が未だなされていないこと、ゆえに「当理事会で決定して問題ない」との回答を緑化工学会から得たこと、を報告し、2011年度の金沢での大会開催が承認された。

### 3.2 2009年度予算執行状況・2010年度予算(案)について

これまでの予算案作成の考え方を踏襲して2010年度予算(案)を策定することについて報告し、平成20年度の最終会計報告を踏まえて、予算(案)を修正することについて了承された。

### 3 海外学会派遣募集

交流委員会

応用生態工学会・交流委員会(中村太士委員長)では、2009年度の海外学会等派遣者の募集を開始致します。募集要領の概略は以下の通りです。詳細は、学会ホームページをご確認の上、事務局まで申込下さい(2009年度助成総額は30万円)。

#### 【海外学会等への派遣者募集要領】

##### 1) 目的:

自然環境と開発の問題については、我が国だけに限らず多くの国々で関心が持たれ、様々な研究と実践的な試みが行われて来ている。応用生態工学を発展させるためには、こうした海外での活動に積極的に係わり参加することによって、情報を得、人的交流を図ることが求められている。

応用生態工学会では、ここに会員から希望者を募り、「派遣研究員」を審査選考して、海外で開催される関連学会・シンポジウム・国際会議等に派遣し、その内容を全会員に報告するものである。

##### 2) 派遣関連学会等:

2009年度に海外で開催される応用生態工学に関連する学会・シンポジウム・会議等を対象とします。

##### 3) 選考基準:

###### (1) 資格

- ① 応用生態工学会の正・学生会員であること(募集開始時点で会員でなくても、会員となることを条件として応募可能とする。)
- ② 応用生態工学に興味を持つ学生あるいは35歳未満の大学・研究機関研究者、技術者

###### (2) 派遣研究員の選考

- ① 2009年度は、学会としての助成総額を30万円とし、適性者数・派遣先等を考慮して、派遣研究員数・個別助成費用を決める。
- ② 資格・適性基準を満たすものについては、費用の助成をしなくても「派遣研究員」として認めることが出来るものとする。ただし、当

人は辞退できる。

- ③ 選考にあたっては交流委員会で書類審査により候補者を選び、理事会において決定する。

##### 4) 申込み申請書:

派遣希望者は、学会ホームページを確認の上、会員番号、氏名、所属、連絡先(〒・住所・TEL・FAX・E-mail)、年齢、男女、専門分野、希望派遣学会等(開催会議等の名称、主催者名、開催月日、開催国・地名、会議等の目的・内容、現地見学会の有無と内容、参加申し込み期限、参加費、研究発表をするか否か、案内パンフ等がありましたらそのコピーをお送り下さい)、および派遣希望理由(選考基準参照のこと)を、A4計二枚以内(書式自由)にまとめ、郵送・FAX・E-mail等にて事務局に申し込み下さい。

##### 5) 申込期限: 2009年6月30日(火) 事務局必着。

##### 6) 派遣決定時期: 2009年7月中旬(予定)

※詳しくは、学会ホームページをご確認ください  
<http://www.ecesj.com/>

(暫定版)

## 4 第13回大会案内 (埼玉大会)

(第13回総会・研究発表会・公開シンポジウム・ミニシンポジウム・エクスカージョン)

応用生態工学会

2009年(平成21年)9月25日(金)～9月28日(月)に第13回大会(総会・研究発表会・分科会(特定テーマ・セッション)・公開シンポジウム・エクスカージョン)を埼玉県にて開催します。

事務局では、本大会に向け、研究発表会の発表の募集・受付を開始しました。研究発表会では、研究成果と共に、現場で抱えている課題や問題提起、プロジェクト提案等を自由に発表できます。会員の皆様の発表参加をお待ちしております。また、今大会ではテーマを絞って議論したい会員のために、従来の口頭発表に加えテーマを特定した分科会や自由集会を準備したいと考えています。議論したい特定テーマをお持ちの方からのユニークな分科会・自由集会の企画を募集いたします。

9月26日(土)には、「現場に役立つ新技術～応用生態工学的な視点から～(仮題)」と題した公開シンポジウムを開催します。また、パネルディスカッションでは学識者・行政・民間(コンサルタント)・研究機関等の研究者・技術者からも意見をいただきながら、他の参加者を交えた意見交換を行えるシンポジウムとしたいと考えています。このシンポジウムは河川整備基金の助成を受けて実施し、一般にも公開します。

9月28日(月)には荒川の上・中・下流(3コース)でのエクスカージョンを行います。

### (1) 大会概要

#### 【日 程】

- 9/25(金): 第1日目 : 研究発表(ポスター), 自由集会 [委員会]  
 9/26(土): 第2日目 : 研究発表(口頭), 公開シンポジウム, 懇親会 [役員会, 総会]  
 9/27(日): 第3日目 : 研究発表(口頭), 分科会(特定テーマ・セッション), 自由集会  
 9/28(月): 第4日目 : エクスカージョン

—スケジュールは、変更することがあります。詳細なスケジュールは後日ニュースレター (Vol. 45 8月発行)、ホームページなどでご案内します。—

#### 【会 場】

埼玉会館

〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-1-4

電話: 048-829-2471 (代)

JR 浦和駅(西口)下車 徒歩6分

<http://www.saf.or.jp/saitama/index.html>



### (2) 公開シンポジウム概要

- 9月26日(土) 13:00 開会 講演者紹介  
 13:10～15:20 招待講演(2題)・事例報告(3～5題)  
 15:30～17:00 パネル討論「現場に役立つ新技術(仮題)」  
 コーディネーター: 埼玉大学教授 浅枝隆

## 【企画のねらい】

近年の遺伝子工学, 分子化学, 情報工学などの分野での新しい技術の発達にはめざましいものがある。しかし, 応用生態工学に関連する分野においては, 現場を支える建設業, コンサルタント業などによる新しい技術の研究開発や導入の速度は, 他の分野に比べて速いとは言えない。これは, 学と産の連携が不十分であったり, 先進的な技術はなかなか評価しにくいという行政や経営者側の考え方も原因にあるだろう。せっかく現場において様々な興味深い現象に遭遇する機会があるのに, 時間がなく研究的な自由度が大きく制限を受けているという現状もある。

このため, 若い人にとっては応用生態工学に関連する分野は魅力が薄れてしまい, 結果として優秀な人材が離れていってしまいかねず, 行政のシンクタンクとしての役割を担っているコンサルタントが力を失ってしまう危険がある。これは学会の危機でもある。しかし, その危機を打開するための意識改革は一朝一夕にできるものではない。

そこで, 応用生態工学的な視点から今後取り入れられるべき新技術とは何か, どのように研究開発すべきかを議論することは, 現場における技術の高度化・効率化のみならず, 若い人にとって魅力ある業界の育成, ひいては応用生態工学の発展にとってきわめて重要なことである。

本公開シンポジウムでは, 「現場に役立つ新技術」というキーワードで今後を展望するとともに, 旧来のやり方から脱却し, 新しい技術の研究開発を進めるべきというメッセージを業界に発信したいと考えている。

招待講演・事例報告では, 他の分野も含めた先進的な技術の動向や導入に関するレビューや事例, 今後の展望に関する講演をいただく予定である。また, パネル討論では, 産官学のそれぞれの立場から忌憚のないコメントいただける方をお招きし, 今後の業界の刷新などについてフロアとともに議論する予定である。刺激的なシンポジウムしたいと考えているので, ぜひ多くの参加をお願いしたい。

## （3）研究発表募集！

応用生態工学に関わる研究報告, 研究プロジェクト提案などの一般研究発表の受付を開始します。発表方法は, 「ポスター発表」と「口頭発表」とします。下記要領に基づき応募して下さい。

### 1) 研究発表内容

研究発表に応募できる講演内容は, 応用生態工学に関する調査報告, 研究報告, 事例報告, 研究プロジェクト提案および自由課題です。当該発表の内容が, 現場のさまざまな事業・活動にどのように応用できる知見であるかに触れていただければ, 研究・調査報告が基礎的内容であってもかまいません。

### 2) 発表方法

応募に当たっては, 「口頭発表」か「ポスター発表」のいずれを希望するか明記して下さい。応募状況によっては, 実行委員会にて変更をお願いする場合があります。

### 3) 発表時間

口頭発表の発表時間は, 1 課題当たり 15 分(発表 12 分, 討論 3 分) 程度で, 申込数により決定します。

### 4) 研究発表申込 (7月25日 (金) まで)

研究発表を申し込まれる方は, A 4 版用紙 1 枚に, 下記事項を記入の上, 事務局まで郵便, FAX, または E-mail でお送りください。後日事務局より受付および「口頭発表」か「ポスター発表」の確認連絡をします。

—— 申込記入事項 —— (A4版1枚)

- ①発表者名および連名者名と各々の所属 (会員番号: 連名者が非会員である場合, 番号は不要)
- ②研究発表題目
- ③連絡先 (〒, 住所, 氏名, TEL, FAX, E-mail)
- ④研究発表概要 (和文 200 字程度)
- ⑤「ポスター発表」「口頭発表」の希望
- ⑥事例報告, 研究報告, その他 の別
- ⑦キーワード (対象地域・対象生物を含め5つ程度)  
[対象地域の例] 河川, 汽水域, 湖沼, 海域, 森林, 水田, 畑地, 道路, 都市, 農村, 等  
[対象生物の例] 生態系, 陸上植物, 陸上動物, 水生植物, 底生動物, 鳥類, 魚類, 等

**5] 研究発表要旨原稿の提出 (8月16日 (日) まで)**

研究発表者 (口頭発表及びポスター発表いずれも同じ) は, 研究発表要旨原稿 (A4版4枚 or 2枚以内) を期日までに事務局へ提出. 原稿は下記の要領に従って作成. なお, ポスター発表については, ポスター作成要領および関連スケジュールを後日連絡します.

—— 研究発表要旨原稿作成要領 ——

- ・研究発表要旨については査読を行いません. 要旨集にもその旨を記載いたします.
- ・A4版縦, 4枚, または2枚.
- ・左右15mm以上, 上下18mm以上余白
- ・横一段組み, 中央に「講演題目」を和文にて, 14ポイント程度の文字, 2行以内で記入
- ・題目の下1行空け右寄せで「講演者名, 連名者名, 各々の所属」を, 12ポイント程度の文字で記入
- ・本文は, 10.5ポイント・明朝
- ・原稿はそのまま印刷できるようにプリントし, 図表等を張り付けたものを1部提出. メールで送付の場合はMS-WordのファイルまたはPDFファイルの添付でお願いします. 印刷は白黒です.

**6] 研究発表者資格**

研究発表者は, 応用生態工学会の正会員, 学生会員, および賛助会員法人に所属する個人. なお, 連名者については会員・非会員を問いません. 但し, 研究発表者が学生の場合, 連名者に会員がいれば可とします.

**7] 発表賞**

ポスター発表, 口頭発表のそれぞれを対象とします. 選考は大会実行委員会で行い, ポスター発表賞の表彰式は9月26日(土)の総会終了後に発表予定です. 口頭発表賞は12月発行予定のニュースレターでお知らせします.

また, 大会の全てのプログラムの中から表彰する大会実行委員長賞等についても企画中です.

**(4) 分科会・自由集会企画募集!**

今大会ではテーマを絞って議論したい会員のために, 分科会や自由集会を開催できる小会場をいくつか確保しています. 議論したいテーマをお持ちの方は, 積極的に申し出てください. なお会場数及び開催時間帯は限られていますので, どうかお早くご連絡いただき (6/15まで), ご相談ください.

**連絡先:** 大会実行委員 (分科会担当) 高橋和也 (E-mail: [takahashi-kazuya@oyonet.oyo.co.jp](mailto:takahashi-kazuya@oyonet.oyo.co.jp))

## (5) エクスカーション

### 1) 日 時

9月28日(月) 10:00~17:00頃(予定)  
※27日(日)に、事前レクを1時間程度実施予定

### 2) 行 先

関東平野のへソと言うべき埼玉県, その真ん中を流れる一級河川荒川を「上流」「中流」「下流」の3つに分けて, 以下のテーマによりエクスカーションを実施します. 参加枠は各コース30名程度を想定していますが, 希望者が集中する場合は相談となります.

- ①荒川上流コース : テーマ「(仮称) ダムによるインパクトと環境レスポンスを見る」  
※荒川上流ダム群とその下流河川の環境を考えるコース
- ②荒川中流コース : テーマ「(仮称) 平地河川における自然と人とのかかわりを見る」  
※一次的環境と二次的環境が混在する平地の河川環境を考えるコース
- ③荒川下流コース : テーマ「(仮称) 都市河川の水際環境・汽水環境を見る」  
※船上より荒川から東京湾につながる環境の特徴を考えるコース

### 3) 参加資格等

エクスカーションの参加は自由です. 希望するコースをお申し込みください. なお, 原則として参加者は, 集合場所までの交通費と昼食代, 解散後の交通費, その他必要に応じ発生する費用(上限1000円程度)を自費負担していただきます. 詳細は担当までお問い合わせ下さい.

連絡先: 大会実行委員(エクスカーション担当) 関根秀明 (E-mail: sekine@ctie.co.jp)

## (6) 参加申込み方法

参加申込みは, 『参加・発表申込書』(本ニュースレターに同封)により, 8月17日(月)までに, 参加費用をお振込のうえ, FAX または電子メールで下記までお申し込みください. なお, 8月初旬に発行予定のニュースレター(Vol.45号)送付時にも, 再度ご案内と参加申込書を同封致します.

大会参加費は, 一般6,000円(当日参加7,000円), 学生3,000円, 非会員10,000円, 懇親会参加費5,000円(当日参加6,000円予定)です. 費用には講演要旨集が含まれます.

### ● エクスカーション参加料(一律): 1,500円程度を予定(大会当日にお支払い下さい)

※詳細なスケジュールや申し込み等は, 別途ホームページや, 次号ニュースレター(Vol.45 8月発行)でもご案内いたします.

※申し込みは, ホームページ上のフォーム, E-mail で連絡いただくか, 同封の一般参加申込み用紙をFAXしてください.

## (7) お問い合わせ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL. 03-5216-8401

FAX. 03-5216-8520

E-mail: [eces-manager@ecesj.com](mailto:eces-manager@ecesj.com)



## 5 次期役員候補の募集

次期役員募集・推薦委員会

委員長：川那部元会長

委員：廣瀬前会長，山岸会長，森下副会長

今年度は役員改選期にあたります。本委員会は3月23日の第45回理事会で設置されたのを受け、5月7日に第1回の委員会を開催し、以下の要領で次期役員の募集を行うことといたしました。会員の皆様におかれましては、以下の要領で候補者の届出をしていただくようお願いいたします。なお、本委員会の規程（次期役員募集・推薦委員会規程）は、3月23日の第45回理事会で概ね了承され、細部を修正して5月1日に第47回理事会で最終決定されました。

### 【届出を受け付ける役員】

会長（1名）および副会長（3名以内）、理事（15名以内）、監事（2名）

※役員選出に関連する学会規約第9,10,11,13,14条をご確認ください。また、幹事については、学会規約第12条のとおり理事会により候補が推薦されます。

### 【届出の方法】

自薦・他薦を問いません。会長及び副会長については、それぞれの候補者名に正会員5名以上の推薦人の名簿を添えて届け出てください。

### 【受付期間】

2009年6月1日から6月30日までの1ヶ月間

### 【届出の様式】

学会ホームページ掲載の所定の様式（上記期間中掲載）を用いてください。

### 【今後の役員選出の流れ】

#### (1) 第2回委員会の開催

- 候補者の届出や推薦人名簿の確認などを行い、候補者が定員に満たない場合などは、候補者の推薦を行います。

#### (2) 候補者の周知と投票

- 候補者名は、総会までに事務局から、ニュースレターや学会ホームページ等によって周知します。
- 事務局が主体となって、総会前に会員による投票を行い、次期役員予定者を決定し、理事会に諮ります。
- 投票の方法等は後日お知らせします。

### (3) 総会での選出

- 学会規約に基づき、総会では、投票により決定された会長予定者・副会長予定者・理事予定者・監事予定者及び幹事予定者から、総会出席者（委任状による出席者を含む）により選出します。

### 【規程】

#### 次期役員募集・推薦委員会 規程

#### [1] 目的

本委員会は、学会規約に基づく次期役員の選出を円滑に行うために設置し、立候補者の募集・受付、候補者の推薦、周知など、次期役員候補の推薦までの手続きを調整する。

#### [2] 設置と構成

本委員会は、役員改選年ごとに設置し、当該年の総会終了後に解散する。委員長及び委員は、理事会が指名する会員4名以上で構成する。

#### [3] 立候補者の募集・受付

本委員会が立候補を募る役員は、会長、副会長、理事、監事とする。なお、立候補者の募集・受付の基本的な要領は以下のとおりとし、募集案内や日程等を会員に周知するものとする。

- 役員候補者は正会員とする。ただし、学会規約第10条及び第13条により、会長、副会長及び監事はこの限りではない。
- 候補者は、自薦・他薦を問わない。
- 会長及び副会長については、それぞれの候補者名に正会員5名以上の推薦人の名簿を添えて学会事務局に届け出る。
- 候補者の募集・受付期間は、役員改選年の総会の4ヶ月前～3ヶ月前を基本とする。

#### [4] 候補者の推薦

本委員会は、候補者の募集期間中に候補者が定員に満たない場合などは、候補者の募集・受付期間経過後に候補者の推薦を行う。

#### [5] 周知・投票に関する調整

本委員会は、学会事務局が実施する以下の活動の調整を行う。

- 立候補者の募集・受付の要領や推薦人名簿の

様式等の必要な書類の周知は、学会ニュースレター及び学会のホームページへの掲載等によって行う。

- ・立候補者もしくは推薦された候補者は、総会までに学会ニュースレター及び学会のホームページへの掲載等によって会員に周知する。
- ・総会前に正会員による投票を行い、自薦・他薦された次期役員候補者から次期役員予定者を理事会に諮る。次期役員予定者の中から、総会において各役員が選出される。

#### [6]総会における報告

本委員会は、学会規約第10条、第11条、第13条、及び第14条に基づく総会での役員の選出が円滑に行われるよう、総会において以下に示す報告等を行う。

- ・次期役員候補者の募集・推薦、投票等の経過の報告
- ・次期役員予定者名の紹介

#### [7] 付則

本規程は、平成21年5月11日より施行する。

テーマ「市民－研究者連携による外来植物の管理・モニタリング」

第3回 2008年11月9日 (参加14名)

テーマ「多摩川のつる植物の繁茂とその対策を考える現地見学会」

第4回 2008年11月21日 (参加23名)

テーマ「植生を巡る最近の話題 (外来種と景観問題, 地球温暖化と植生等)」

第5回 2008年12月27日 (参加33名)

テーマ「ダム・湖沼に関する話題」

第6回 2009年1月16日 (参加28名)

テーマ「里山の自然再生/溪流の水質」



多摩川 現地見学会の様子

## 6 行事予定・開催報告など

### 1) 応用生態工学会東京の活動紹介

応用生態工学会 東京  
久保市浩右 (応用地質 (株))

応用生態工学会東京は、2007年11月の第1回勉強会以降、浅枝隆 (埼玉大学) 先生を中心に、小休止をはさみながらも活動を続けています。これまで下記のように計6回の勉強会を財団の会議室などをお借りして行い、多くの方々にご参加いただきました。新しい研究成果などについて学び、さまざまな議論を交わし、現場での活動なども体験できました。

第1回 2007年11月27日 (参加26名)

河川の物理環境調査と環境診断など3つの  
話題提供

第2回 2008年6月3日 (参加41名)

2009年度も6月5日の第7回勉強会から活動を再開します。時間・場所等の詳細は学会ホームページでご確認いただき、奮ってご参加ください。なお、今後の企画も順次決まり次第ホームページ、メーリングリスト等でお知らせしていく予定です。

なお、東京地域の連絡責任者の高橋和也氏(応用地質(株))の異動のため、私が連絡責任者を引き継がせていただくことになりました。今後も、充実した勉強会を企画・実施し盛り上げていきたいと考えていますので、会員および関係者、関係機関の参加と御協力をお願いします。

## 2) 第8回北陸現地ワークショップ in 福井

応用生態工学会 福井  
森田弘樹(株サンワコン)

### 【開催趣旨】

応用生態工学会では、人と生物の関わり、生態学と土木工学のつながりを考えるための活動に取り組んできました。

主な活動の一つとして、分野間の交流と応用生態工学の普及を目的に各地域でワークショップを開催し、北陸では新潟、富山、石川で回を重ねて来ました。第8回北陸現地ワークショップは、「九頭竜川流域の多様性～つながりの保全・再生をめざして～」をテーマに、福井県での開催となります。

福井県は古来より「越山若水(えつざんじゃくすい)」と呼ばれ、越前の緑豊かな山々と若狭の清らかな水が、その美しく豊かな自然を象徴しています。福井県で初めての開催となる今回は越前地方に焦点を当て、越前地方のほぼ全域を流域とする九頭竜川水系に着目することとしました。

九頭竜川水系は、九頭竜川に流れ込む日野川、足羽川を主な支流とし、越前地方における生態系の源といえる存在です。

ワークショップでは九頭竜川流域の持つ「多様性」をテーマに、その湧水清らかな源流域から中流域を経て水稲彩の下流域までの区間において、様々なフィールドや立場からの講演を予定しています。そして、「つながり」という視点から、一般の方々を含め幅広い皆様と共に、現在起きている様々な問題を認識し、その解決に向けた取り組みを一緒に考えて行くことを目的にしたいと考えています。ぜひ多数の参加をお願いします。

また、ワークショップと合わせて、現地見学会も実施します。福井豪雨からの復旧を果たした足羽川激特事業実施箇所をはじめ、九頭竜川水系の特色ある見学コースを企画しています。どうかご期待ください。

### (1) ワークショップ

日時：平成21年10月30日(金)  
9:50~17:00

会場：福井県立大学交流センター 講堂

### (2) 交流会

日時：平成21年10月30日(金)  
18:30~20:30

場所：福井駅周辺

### (3) 現地見学会

日時：平成21年10月31日(土)  
9:00~16:00

コース：足羽川激特事業実施箇所、足羽川稲津魚道、一乗谷朝倉遺跡、本願清水イトヨの里、鳴鹿大堰

出発：福井駅東口(電車利用の方) 9:00  
福井土木事務所(車利用の方)

9:20

※次回会誌(vol.12 No.1:6月下旬発送予定)にチラシを同封する予定です。

## 7 新任ごあいさつ

事務局長 仮谷伏竜

前号のニュースレター(No.43号)で奥村前事務局長からご紹介いただいておりますが、4月1日より事務局長として着任いたしました。これまで主に河川環境に係わる事業に携わっており、生態・環境に関する知見と工学との融合、その普及・応用についての必要性を強く感じて参りました。本学会を築いてこられた諸先輩のご指導を頂き、より一層社会貢献度の高い学会活動のため、微力ながら努力精進する所存でございます。不慣れのため行き届きが多く会員の皆様にはご迷惑をお掛けすることがあるかと思いますが、ご支援・ご助力のほど、宜しく願いいたします。事務局の近くに来られた際には、ぜひお立ち寄り下さい。

## 8 学会誌の公開について

「応用生態工学」会誌が、独立行政法人 科学技術振興機構が運営する Journal@rchive(ジャーナルアーカイブ)サイトで公開されました。

現在時点で、一般に公開されている学会誌は、Vol. 1-No. 1 (1998)～Vol. 6-No. 2 (2004)となっています。

Journal@rchive 下記 URL から、「応用生態工学」で検索、ご覧ください。

● <http://www.journalarchive.jst.go.jp/>



## 9 編集後記・事務局から

### ＜今後の予定＞

楽しかったゴールデンウィークもあっという間に終わり、世界的に感染が広がる豚インフルエンザが国内でも拡がりつつあります。早めの予防、手洗い・うがいの励行により、お身体ご自愛ください。

今年も各地で活発に行われる研究活動の情報を集めました。今年度の大きなトピックは、役員改選年であり、学会として初めての総会前投票が実施されます。

6月1～30日 次期役員募集・受付  
(ニュースレター、ホームページ)

6月5日 応用生態工学会 東京

- 6月下旬 会誌12巻1号発行
- 8月1日 後援事業・日本生態学会自然再生講習会  
第1回 「あなたにもできる自然再生  
：生態学の視点から」
- 8月 ニュースレター45号発行
- 8月 応用生態工学会 広島  
第3回ワークショップ
- 9月25-28日 第13回埼玉大会  
「テーマ：先端技術」  
・総会、理事会・幹事会、各委員会開催
- 9月28日 後援事業  
第12回水源地生態研究セミナー  
：財団法人ダム水源地環境整備センター
- 10月30～31日 応用生態工学会 福井  
第8回北陸現地ワークショップ in 福井  
開催場所：福井県立大学  
「九頭竜川流域の多様性  
～つながりの保全・再生をめざして～」
- 秋季 応用生態工学会 (四国)  
勉強会：～重信川の自然再生～
- 11月 応用生態工学会 福岡 (予定)  
2009-九州の応用生態工学の事例と研究-
- 12月 ニュースレター46号発行
- 12月 第40回幹事会、第49回理事会

### ＜事務局の近況＞

平成20年度末で、当学会設立以来、初めて会員数が微減となってしまいました。昨年度の世界的な不況による影響もあるものともいますが、学会としてより魅力的・実用的な情報の蓄積と発信を進め、工学分野の活性化を図っていく必要性を強く認識しました。

本号でご紹介しましたが、2010年に名古屋市で開催されるCOP10に向け、応用生態工学会独自の取り組みを実施していくことが決まりました。世界的な重要課題解消に向けた国際会議において、応用生態工学の知見を存分に発揮し、課題の解決の一助となるよう事務局としても一層の取り組みを推進して参りたいと思います。今後とも、会員の皆様のご支援・ご協力のほどお願いいたします。  
(事務局：仮谷伏竜)

\*\*\*\*\*

[平成21年5月1日現在会員数]

名誉会員： 3名  
正会員： 1,076名  
学生会員： 108名 合計1,187名  
賛助会員： 33法人 (50口)